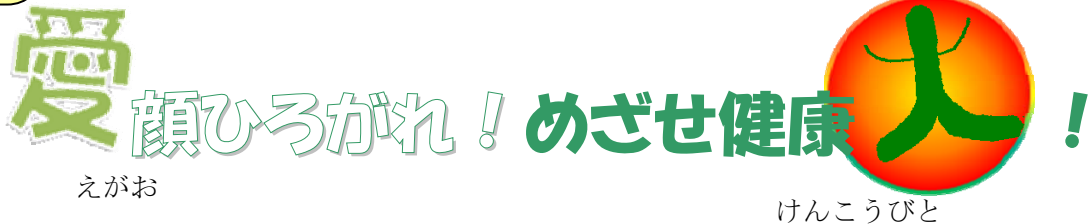


第3章 県民の健康の増進の推進に関する基本的な方向

「健康実現えひめ2010」は、12年間、県民・企業等に健康づくりの取組を浸透させていき、一定程度の時間をかけて取り組みましたが、各分野の目標達成状況を評価したところ、様々な成果と課題がありました。

そこで、「えひめ健康づくり21」では、国の「健康日本21（第2次）」に沿って、県における健康対策の課題を基に、健康づくり運動を充実、発展させるため、次のような方向で展開していくこととします。

スローガン



1 5つの基本的な方向

(1) 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

生活習慣の多様化により疾病構造が変化し、生活習慣病の割合が増加するとともに、寝たきりや認知症のように高齢化に伴う機能の低下も増加しています。

これらの疾患は、生命に関係するだけでなく身体の機能や生活の質にも影響があるため、生活習慣病の予防はもとより、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上等にも取り組み、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間をいう。以下同じ。）を延伸することが重要です。

また、あらゆる世代や地域で、健やかな暮らしが送れる良好な社会環境を整えることにより、健康格差（地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差をいう。以下同じ。）の縮小を実現することが重要です。

(2) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

がん、循環器疾患、糖尿病及びCOPD（慢性閉塞性肺疾患をいう。以下同じ。）等これらの生活習慣病の予防はますます重要です。

当県は超高齢化となっているため、食生活の改善や運動習慣の定着等による一次予防だけでなく、症状の悪化、重症化予防の二次予防、合併症による臓器障害の予防等の三次予防にも重点を置いた対策を推進することが重要です。

(3) 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

県民が自立した日常生活を営むことを目指し、乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて心身機能の維持及び向上につながる対策に取り組むことが重要です。

また、生活習慣病を予防し、健康寿命の延伸を実現することは、県民一人ひとりが自立した社会生活を営むために重要です。そのためには乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージに応じた心身機能の維持向上に取り組む必要があります。

さらに、働く世代のメンタルヘルス対策等により、ライフステージに応じた「こころの健康づくり」も大切です。

(4) 健康を支え、守るための社会環境の整備

個人の健康は、個々の努力だけでは解決が容易ではなく、家庭、学校、地域、職場等の社会環境の影響を受けることから、社会全体で健康を支え守る環境づくりに努めていくことが重要です。そのためには、行政機関のみならず、広く県民の健康づくりを支援する企業、民間団体等が協働し、県民が主体的に行う健康づくりの取組を総合的に支援する環境整備が大切です。

また、愛媛の文化や愛媛に住む人々のところから生まれる人や地域の繋がり、絆を大きな力（ソーシャルキャピタルの水準をあげること）として、県民の健康を守る環境を整備することが必要です。

(5) 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

上記(1)から(4)までの基本的な方向を実現するためには、栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善が重要です。

そのためには、乳幼児期から高齢期までのライフステージや性差、社会経済的状況等の違いに着目し、対象ごとの特性やニーズ、健康課題等を十分に把握することが必要です。

その上で、生活習慣病を発症する危険度の高い集団や世代へ、生活習慣の改善に重点的に働きかけを行うとともに、地域や職場等を通じて県民に対し健康増進への働きかけを進めることが重要です。